

楠木正成(くすのきまさしげ)銅像

皇居外苑の一角には、天皇への深い忠誠で知られる武士、楠木正成（1294 年-1336 年）の銅像があります。

楠木は、後醍醐天皇（1288 年-1339 年）への深い忠誠心から、自身の人生を捧げた人物として記憶されています。彼の戦術の才気は、後醍醐天皇の鎌倉幕府倒幕と天皇親政の一時的な復活へ寄与しました。しかし、後醍醐天皇は反逆的な武将に裏切られ、楠木に大軍との戦を命じます。勝つことは叶わないと予測した楠木は、考え直すように天皇を説得します。結局、戦は戦術的失敗に終わりました。彼は捕まるのであればと、武士の伝統にならった切腹で名誉ある死を遂げました。

武家政権であった鎌倉幕府の倒幕を、1331 年に初めて試みたが失敗し、島流しにされた後に、日本海の隠岐島から帰還する後醍醐天皇を迎える楠木の様子を表現した銅像です。